

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ほっとスマイル		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字小沢47番地2		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900033&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900033&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3-1-19 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成22年1月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個々の生活リズムを大切にしつつ、利用者さん全員が参加できる行事を積極的に取り入れています。また、運営推進会議を活用し、『ほっとする講座』を開催。地域の方々と交えた、ミニ講座を定期的に行っています。現在、岩手県認知症高齢者グループホーム協会の事務局として、グループホーム間の橋渡し役を担っております。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者を中心に、ほっとスマイルの名の通り理念を目指す方向にチーム一丸となって取り組んでいる。それは、職員や利用者だけでなく、家族やボランティアを含めた支援、例えば、地域資源との協働としてのボランティアによる様々な支援を願うなど、先進的、実験的な取り組みと実践に表されている。重度化や終末期に向けた方針がはっきりと確立されており、本人の意思を最大限に尊重する中で、家族の意向を尊重し行うことを前提に、看取りに関する同意書を求めるようにしている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングの場で、職員から意見を出してもらい、理念を決める。玄関、事務所の見える所に貼り、常に目に出来るようにしている。	理念に向けての実践は日常の中で、職員一人ひとりが心がけると共に、チームとしても取り組んでいるが、必ずしも満足できているとは思っていない。常に反省はしている。しかし共有に努めつつ、努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事(運動会、一斉清掃など)に参加し、ボランティアさんや民生委員さんと情報交換、交流を積極的に行っている。職員が中心となっている為、今後、利用者さんが参加できるように働きかけをしていきたい。	一関市三関第一民区自治会に、グループホームとして加入しており、区長さん、民生児童委員さんは、運営推進会議の委員である。各種の地区行事にも、地域の一員として参加可能な利用者さんと職員が参加するように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練、ほっとする講座を定期的を開催し、地域のみなさまに参加を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価についての説明、結果などを報告しているが、みなさまから意見を頂くまで至っておらず、サービス向上に繋がっていない。	運営推進会議の中で、諸報告をすると同時に「ほっとする講座」を開催し、委員の皆さんにグループホーム及び関連する事柄を理解して頂くように努めながら、サービスの質向上のため提言を求める工夫をしている。	「ほっとする講座」への地域の皆さんの参加によりグループホームを理解頂くとする方法を踏まえながらも、運営推進会議のあり方として、第三者的な視点も含め多様な提言を入れながらサービスのあり方、質の向上に努めるべく、多様な委員構成などの取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員(年2回程度)、保険者職員、市生活福祉係職員の訪問がある。今後、事業所から積極的に行事等に働きかけをしていきたい。	運営推進会議のメンバーとして市介護保険課の職員がおり、度々情報交換や相談をしている。また、介護相談員の訪問もあり利用者や職員と雑談する中で、有効な支援を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束を行っていない。年に数回、母体施設と共同で、ケアマネジメント委員会に参加し、情報交換、共有し、職員やご家族にも周知徹底に努めていきたい。	日中には、玄関に施錠はしておらず、夕方7時頃に施錠するが、ご家族面会などに合わせ、柔軟に対応している。母体施設とのケアマネジメント委員会が年4~5回開催される中で、情報交換を行い、身体拘束しないケアのあり方に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内学習会を実施。今後、利用者さん、ご家族を交えた学習会も取り組んでいきたい。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ほっとスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内学習会を実施。今後、利用者さん、ご家族を交えた学習会も取り組んでいきたい。また、同法人内や社会福祉協議会と共同しながら進めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項(事業所の内容、料金、苦情・相談窓口など)の説明をし、契約書の流れとしている。利用開始後も、相談できる体制づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『明生園福祉オンブズマン』制度のお話をし、周知徹底に努めている。ホームの玄関に、投書箱を設置している。	家族や利用者には、オンブズマン制度のあることを説明し、意見等を出して頂くようにすること、投書箱の設置、来所時に話していただくこと、電話をいただくなど多様な機会を設けて意見を出しやすい環境づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者会議、経営会議などを通じて、職員の意見を話せる機会がある。また、ミーティングに総合施設長に参加してもらえるよう働きかけをしている。	母体の明生園の幹部は、年に数回、直接会議に出席し、職員の意見を聴く。通常は管理者を通したり、会議の場で職員の意見を出して貰っている。職員からの要望が運営に反映された具体例として夜勤専門員の配置がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長から、職員の能力、意見を把握し、総合施設長へ相談する橋渡し役を担うように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設と共同し、新人研修に参加したり、職員研修会(両磐ブロック高齢者福祉協議会や岩手県認知症高齢者グループホーム協会など)に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	休日を利用し、他グループホームを見学し、情報交換をするなど、職員自ら気づきを得る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの説明をできるだけ詳しく行うとともに、事前に見学を勧め、現在、利用中の他の方々と交流できる時間を多くつくるよう働きかけをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの説明をできるだけ詳しく行うとともに、事前に見学を勧め、利用予定の方と現在、利用中の他の方々との関わりを見ていただく機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	些細な行動や、本人の話を聴く姿勢を持ち、意思疎通が困難な利用者さんに対しても関わりを継続できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営みながら、本人のできる役割を見つけ、グループホームでの生活(暮らし)に一日でも早く馴染んでいただけるよう努めている。家事手伝いを中心に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に、ゆっくりお話できるような居室へ案内したり、お互い安心して話ができる環境づくりや声掛けに努めている。毎月のほっとスマイル通信や電話で近況報告に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の面会や、民生委員さんを始め、理美容の訪問の働きかけに努めている。	以前から利用している理美容院の方に訪問頂いたり、親せきの方々の来所により利用者さんと触れ合いをもって頂き、民生委員さんには声かけをして外出支援を願ったりと協力を頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員以上に、利用者さん同士で声掛けを行い、日常の様子などを見て戴いている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体施設や当ホームの行事等に案内を出したり、外出先でご家族にお会いしたときに情報交換をしている。終了後も、相談できる雰囲気づくりに心掛けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努めているが、みんなの前で遠慮している利用者さんに対し、個別にお話しができるよう環境面からも心掛けていきたい。	利用者と職員で相互の信頼関係を確立するため対人関係を大切に言動に留意すると共に、個別に話しあえる場として利用者の部屋や、入浴時などの1対1になれるような、他に気兼ねすることのない状況にも考慮している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査に限らず、本人やご家族から情報収集に心掛けている。家族構成を聴き、話題づくりの資料としている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	『24時間シート』を活用し、本人の一日の暮らしぶりから、ご自分でできる、できない(支援が必要な項目)などの把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、職員、ご家族から意見を反映できるよう努めている。今後、本人からの要望、思いを網羅できるよう心掛けていきたい。	介護計画は、原案を元に家族や職員の意見を反映させながら、チームで作成している。しかし、利用者や家族は馴れてくると「任せるから。」になってしまうことがあり、この状況をいかに克服するか工夫の必要がある。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録の他に、職員連絡ノートを活用し、特変や必要な情報提供を記録している。また、ケース記録の様式を見直す機会を設けている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの介護理容の方に限らず、利用前に通っていた理容店に外出援助するなど、ホーム内だけでなく、より多くの方々に関わってもらえるよう情報収集に努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ほっとスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんを始め、多くのボランティアさんの協力をいただき、ホーム内で伸び伸び生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前の主治医の関係を維持しながら、心身の状態に合わせ、本人、ご家族と相談しながら新規の医療機関を紹介している。	利用者と家族の希望により、かかりつけ医となっており、その通院支援については職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の勤務ではあるが、連絡ノートを活用し、医療面の処置、相談ができる体制づくりに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際に、医療機関(主治医、担当看護師等)と連絡をとり、病状の報告、退院後の注意事項など機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時に情報交換をしているが、記録整備が不十分である。今後、定期的に家族アンケートを実施し、利用者さん、ご家族の意向を受け止めるよう支援していきたい。お元気づちに、情報交換ができるよう心掛けていきたい。	「指針」が明確にされており、その中で「ほっとスマイルにおける看取り介護実施の定義」が位置づけられ、利用者や家族には看取り介護に関する同意書を求めることになっている。具体的な事例は無いものの今後に向けてその都度、家族の意向を受けとめると同時に、医療行為にかかわる不安の軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での避難訓練や、災害救護研修会(消防署主催)に参加している。マニュアルを作成し、定期的に見直しをしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での避難訓練時は、ご近所に回覧し参加を促し、みなさんで協力体制をつくり、情報が共有できる機会を設けている。	今年度は7月6日に夜間想定火災避難訓練を実施した。職員間ではマニュアルによってそれぞれの役割分担で対策を共有しつつ、地域の皆さんには、基本的には訓練状況を見て、それに対し意見をいただくと共に協力のあり方の考えを求める。また、区長さん、民生委員さんには緊急連絡の体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生まれも育ちも違う利用者さん。個々に応じた声掛けや対応に努めている。	利用者一人ひとりの尊厳を大切にすること。そのため職員は日頃利用者に対する言動に気をつけることに努め支援している。利用者の羞恥心に配慮した声かけ、例えば失敗した時に大きな声を出さないなど、さりげない支援をする。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時間や入浴などの時間を利用し、日常の会話の中から、本人たちの希望を表現できるようお話を時間を確保できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に、午前のおやつ時間を利用し、今日の予定を話し合い、個々に合わせた支援ができるよう心掛けている(裁縫、ぬり絵など)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に、外出援助の場合や行事(敬老会等)のときに、ご家族のご協力をいただき服を新調したり、お化粧できる機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てるとき、買い物をしながら、利用者さんの嗜好を活かしながら、準備(調理補助)、配膳、下膳、茶碗洗い、拭き方、片付けの役割分担ができています。月に一度、調理ボランティアさんが訪問している。	利用者が何を食べたいか、みんなと話し合いながらメニューを決めている。食事の準備や片付けなど利用者一人ひとりの出来ることを分担してやっている。食事に外の風を取り入れ新鮮さを醸(かも)し出すため、月1回調理ボランティアを受け入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方の食事量を調整したり、水分量を一日ごとに合計を算出。水分量が少ない利用者さんには、好みを聴いたり、水分の種類を変更し様子を見ている。不定期ではあるが、母体施設の栄養士、ご家族から指導いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアができる方は見守りや洗口液を使用中。口腔ケア困難者は、食後、白湯を飲むなど口腔内の残渣物除去に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ほっとスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力排泄者には、排泄の有無のほかにパットの確認をしている。24時間、排泄チェックを行い、排泄時間の大きな目安とし、声掛け、サインを見逃さないよう注意している。	9時から翌日の8時まで、24時間の排泄チェックを水分の摂取量と合わせ、記録しながら利用者一人ひとりが、自ら排泄出来るようそれぞれのパターンを掴みながら、さりげなく支援することに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を摂取できるよう声掛けを行ったり、個々の体調に合わせて、水分量や主治医と相談し、内服薬の調整を行っている。薬に頼らず、センナ茶や牛乳なども使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、基本的に一日おきに入浴。今後、定期的に入浴希望を本人(または、ご家族)に聴き、入浴回数、時間帯、異性介護等に取り組んでいきたい。	入浴の可否については、バイタルチェック表によって当日の担当者3人により判断している。今後、可能な限り入浴回数、時間帯など利用者の希望に沿えるようにしたいと考えている。現在、夜の希望もあるが、対応出来ていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休憩を始め、日中の活動を通して、夜間に安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師さんに配達してもらい、新しい薬についての情報や服薬の注意点など聴く機会を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までのホームでの写真や、不定期ではあるが全員で外出(ドライブ)ができる機会や、母体施設での慰問、行事等に積極的に参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員だけでは限界があるため、ご家族の協力をいただき、実家や親戚宅に訪問できるよう働きかけに努めている。	利用者のその日の希望や体調を見ながら散歩に行くなどの支援はしている。しかし、利用者全員が毎日となると職員体制から困難を伴う。今年は職員と利用者が1対1で、買い物に行けるようなことを目標としたい。また、外出に当たっては、家族の協力を頂きたい。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ほっとスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理以外で、お金を所持している方には、外出の際、声掛けやレジでの見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を掛けたり、年賀状をご自分で書く機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに開閉窓が出来たことにより、風を採り入れたり、冬期間に暖房器具の設置、夏場は極力、窓を開放する等、肌で季節感を感じてもらおう工夫をしている。	フロアの飾りつけを工夫し、季節感を採り入れるようにしている。(例えば、月に1~2回訪問される生花の先生に季節の花を飾っていただくとか。)また、台所と食堂は、利用者と職員が一体的に動けるように配置されているし、畳の間とソファでは思い思いにくつろげる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のペースに合わせ、居場所を確保したり、ホール、居間の指定席に拘らず、自由にお話ができるよう声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始前に、家具等の持ち込み可能であることを説明し、少しでも安心できる環境づくりに心掛けている。就寝時、混乱する場合は、ベッドでなく布団に切り替えるなど本人の状態に合わせた支援をしている。	利用者一人ひとりが思い出の物品を持ち込んで、それぞれ今までの生活に合わせた部屋づくりが行なわれていることが実見できた。家具や写真等々、馴染みの使い慣れたものとか思い出の品を置くことによって、自分と合った部屋づくりをし、また、それを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	増築工事に合わせ、手すりを増設。また、トイレや居室前にご自分の写真を掲示するなど、本人の見当識に合わせ支援している。		